

副会長あいさつ	井原俊輔(名古屋大学)
名誉会員紹介	
会員へのメッセージ	佐藤 洋(名誉会員)
会員へのメッセージ	重井芳治(名誉会員)
私の情報理論事始め	滑川敏彦(名誉会員)
昔を今に繋げることができるか	堀内和夫(名誉会員, 東亜大学通信制大学院)
SITA2000 開催報告	実行委員長 今村恭己(九州工業大学)
2000 IEEE Global Telecommunications Conference(Gcom2000) 報告	Senhaji Rhazi Youssef(名古屋大学大学院)
「第4回情報論的学習理論ワークショップ」論文募集	
国際会議のお知らせ	
博士論文要旨の掲載 募集のお知らせ	
情報理論とその応用学会 2001 年度役員	
会員の声	
SITA ニューズレター・ホームページURLについて	

副会長あいさつ

井原俊輔(名古屋大学)

20世紀も終わり、新しい世紀が始まりました。情報理論も最初の50年が経過し、次の50年の幕が開いたばかりです。1978年に発足した我々のSITA(最初は情報理論とその応用研究会とっていました)も本年は誕生の地、神戸に戻って第24回シンポジウムを開催することになりました。

昨年のSITAは阿蘇の広々とした景観を望みつつ落ち着いた雰囲気の中で大変気持ちのよいシンポジウムでした。シンポジウムを準備していただいた実行委員の先生方にあらためて感謝する次第です。一番印象に残ったことは若い人達がセッションでもまたワークショップでも大変活発に議論している姿でした。SITAは一つの宿に泊まり込み、ときに温泉に浸かりながら、ときに杯を重ねながら、所属の違いとか年齢の違いとかを越え、自由かつ活発に議論が行われていることに特徴があると思います。このような雰囲気から新たな研究の進展が得られ、とりわけ若い人達にはお互いに刺激を与え、その中から第一級の研究成果が生まれてくることを期待したいものです。

私はSITAからの恩恵に最も浴している一人だと思っています。私は数学の確率論出身で、確率論の応用として情報理論の勉強を始めました。「役に立つか否か」は考えたこともなく、「確率論的にみて面白いかどうか」という基準でテーマを選んでいました。工学の方とのお付き合いが始まったのはSITAより少しだけ前でした。もう記憶も定かなくなりつつありますが、阪大の研究室に有本卓先生をお訪ねしお話ししたことから始まったように記憶しています。2,3回小さな研究集会をもち、工学からは有本先生を始め韓太舜先生、小林欣吾先生、他の諸先生が参加



してくれました。元気あふれる講演でした。このような経緯もあり、SITAへのお誘いを受け、第一回から参加させてもらいました。以来、父親が危篤で参加できなかった賢島を除き、せっせとSITAに通いつめています。

最初の頃は工学の方と話をしてもすれ違いを感じることもありましたが、今にして思えば《相互情報量》《符号化レート》《通信路容量》、など使っている用語は同じでも、頭に抱いているイメージは多少違っていたようでした。おそらく、逆に工学の方からすれば、数学からきた私は、異なる星からとまではいかなくとも、異なる島から来た奴、くらいには感じられたのではないのでしょうか。しかし、大勢の人が異なる島の人間と辛抱強く付き合っ

くれました。お陰で今では何の違和感もなく議論を楽しむようになりました。S I T Aの場を通して得た知己は、私にとって、個人的に親しい友人でもあり、私の研究にとってかけがえのない存在となっています。数学者にとってはモチベーション、すなわち「どのような問題が面白いか」の点で独りよがりになる可能性があります。私にとって、とりわけモチベーションの段階でS I T Aの友から多くの示唆を受け、ものすごく感謝しています。

これまで、たとえ副であれ、長と名のつくものはすべて避けて通ることをモットーにしてきました。今回は、別件で電話で話しをしていたときに会長の韓先生からそれとなく打診を受けました。相手が他ならぬ韓先生では私はノーという術を知らず、総会の場で慈悲ある大量の否認票に一

縷の望みを託したのですがそれもかなわず、思いもかけず副会長に選ばれることとなりました。S I T Aから恩恵を受けるだけでなく、少しはS I T Aの役に立つことをせよ、とのことと真摯に受けとめています。

3年(?)前まではI Tといえば Information Theory のことでした。現在では日本人の誰もが(内容はともかく)I Tは Information Thechnology のことと知っています。日本人は表面的な部分に目が奪われがちです。こんな時こそ、元祖I Tとその応用の重要性が増していると思います。会員の皆様のご支援を受け、S I T Aの場から情報理論とその応用の新たな展開が生まれてくるような、そんな雰囲気作りのために、会長の下で最大限努力するつもりです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

名誉会員紹介

会員へのメッセージ

名誉会員 佐藤 洋

昨年の南阿蘇の学会で、名誉会員のメダルを頂きました。オリンピックの金メダルのような金色に輝くメダルでした。この機会に会員の皆様に厚く御礼申し上げます。約10年ぶりに学会に出席いたしましたが、諸先生がお変わりなくお元気なことで、大学院クラスの若い方が多くなっていて、学会が隆盛期に入っていることに感銘を受けました。

情報理論は益々広く深くなり正統な情報学としての地位が高くなっているようで、OBとして大変嬉しく思っております。若い会員の皆さんにとって、このように立派な学問の研究に携われることは人間として何より幸福なことと思います。深くその道を究められますよう祈っております。

平成5年3月：電気通信大学退官

平成12年3月：明星大学退官



会員へのメッセージ

名誉会員 重井芳治

重井芳治@76歳です。小生、隠居させていただいて、はや7年、ますます「老兵は消え去る」の心境。

パソコン遊びに興じ、健康維持に努め、お蔭様で幸福な毎日で、有難いこと。以上、ご報告まで。

東洋大学1995年退官。元NTT、元東北大学教授
PXF01241@nifty.ne.jp

<http://member.nifty.ne.jp/shigei/>

終戦当時の5年間、私は大阪大学工学部の大学院特別研究生として空襲の焼け跡に残された建物の中で雑音に関する研究を行っていた。

新しい雑誌、文献は、当時の占領されている状態の敗戦国では入手すべくもなかった。大阪駅前の産経会館には占領軍がアメリカ文化センターを開設していた。その展示室を訪れたとき、一般雑誌のなかに混じっているBSTJを見つけることができた。ここに掲載されていたシャノンの論文シリーズ "Mathematical Theory of Communications" を筆写した思い出がある。私の情報理論事始めであった。

姫路獨協大学教授 1998年退職
namekawa@himeji-du.ac.jp



昔を今に繋げることができるか 名誉会員 堀内和夫

学部学生の頃から打ち込んできた電磁波動理論の研究は、1957年に博士論文を仕上げた頃から切上げて、情報の通信理論への転進を図ったのが、先ず、定常マルコフ過程として入力された知覚対象時刻に対する最適認識系の評価・構成理論の樹立であった(1958年)。

その頃はWiener予測器の非線形化：非線形結合変換器の構成論や非線形的に結合された雑音の除去理論(1959年)、非線形回路出力の平均エルゴード定理(1968年)などを手掛けていた。

その少し前に現在の電子情報通信学会に設置されていた「情報理論研究専門委員会」は、その後の「オートマン・言語」および「パターン認識と学習」の集約的發展のために同名の2つの研究専門委員会に分散設置されていたので、本来の情報理論に係わる専門研究会の設置の要望が昂まってきた。その立場から新たに設立されたのが「情報理論とその応用研究会」であった(1975年)。私も、この趣旨に賛同していたけれど、実際の設立運営は瀧(東大)・滑川(阪大)教授と、そのグループであったろうか。当時、私はコロモゴルフの エントロピー理論に興味を持ち、その立場から当時の電々公社技術委員会で画像情報の エントロピーに関する講演を行い、画像の繊細さのハイアラキ毎のレベルの Fax 通信事業の展開を説き、現在の NTT Fax 事業のスイッチを入れたことを覚えている。(1976年) この理論をこの会の第2回研究会(京都,1976年)で講演している。

第7回研究会(1984年)は、早大が担当せよ、ということになり、私が実行委員長を引き受けたが、私の意見により幾つかの大学から実行委員をだしてもらった「実行委員会」形式で企画・運営した。鬼怒川の温泉旅館で開催されたが、この時の実行委員会がこの研究会の「学会化検討委員会」を実質的に兼ねることになり、その結論によって、この会の学会化が提案され、研究会会員の総意の賛同を得て、「情報理論とその応用学会(SITA)」が設立された(1986年)。初代会長は滑川教授、私は副会長を勤めたが、



滑川会長が1年の任期終了と共に会長を辞任されたあと、私が2代目の会長となり、私の研究室を学会事務局と定めた(1987年)。事務は私の秘書 余語菜穂子嬢が一手に取り仕切っていたのが、若い会員諸兄の評判が良すぎて、私の不在の時にも会員が訪問してくるなど、3期3年間の間も会長役をさせられたことは彼女のせいだったろうか。わたしの在任中に、学会としての機構・体裁・機能が固まり、また国際シンポジウム ISITA の初開催がハワイ・ホノルルで盛大に開かれ(1990年)、今日の本学会の国際学会としての隆盛の基が作られたことは、会員諸氏の尽力のおかげと感謝すると共に、本会自体の実質的能力の顕れであると、今更ながら痛感している。

私自身は第7回の研究会(鬼怒川1984年)で不安定な通信路に関する自身の当時の最新の理論的考察について発表講演をしたが、その後も第11回(別府1988年)で新し

い安全設計の立場を説く広義のフェイルセーフ原理の話英語セッションで、第10回 ISITA(ホノルル,2000年)では複雑・大規模システムの運営に関する新しい理論の提言をするなど、現役の研究者としてのスタンスを失わないよう、心がけている。この最近の私の理論の立場は、50年以上前に開発・提案された Dr. C. E. Shannon の確率過程論としての情報通信理論を、21世紀の初頭から展開が

予想される異質な多様・複雑・大規模ネットワークシステムに対して適用するための一つの試みとして用意したいと願っているものである。このような蠅螂(トウロウ)の斧を以って、昔を今に繋げることができるだろうか。

東亜大学通信制大学院教授
早稲田大学名誉教授

SITA2000 開催報告

実行委員長 今村恭己(九州工業大学)

「第23回情報理論とその応用シンポジウム(SITA2000)」は、昨年(2000年)10月10日(火)-13日(金)の期間に南阿蘇のホテル「グリーンピア南阿蘇」(熊本県阿蘇郡久木野村)で開催した。SITA(Symposium on Information Theory and its Applications)は、情報理論とその応用学会が主催し、電子情報通信学会情報通信基礎サブソサイエティ(情報理論・スペクトル拡散・情報セキュリティ・ITSの4研究専門委員会が構成メンバー)とIEEE Information Theory Society Japan Chapterの2団体が共催で、毎年12月前後に開催されている。SITAは、2年に1度海外で開催しているSITAの国際学会(ISITA)と共に、情報理論とその応用学会(以下では、本学会と書く)の最大の年間行事である。

筆者は、偶然の巡り合せでSITA2000開催のお世話をする事になったが、プログラム委員長の大濱先生(九州大学)と実行委員会のメンバーになって頂いた私の周りの人達の協力により、納得の行く学会開催が出来たことを感謝している。SITA2000の会場になったホテル「グリーンピア南阿蘇」は、広大な自然の中の65万坪の敷地、ホテルのどの部屋からも阿蘇5岳の景観を楽しめること、利用可能な研修室の数等により、満足できる会場だと思う(写真1は、ホテルからの阿蘇の眺め)。開催期間中は、良い天候に恵まれたことも幸運であった。学会終了後の阿蘇・九重・九州電力地熱発電所経由で熊本空港・JR立野駅行きチャーターバスにも55名の学会参加者が参加した。



今回は、11月のISITA(ハワイ)と12月のASI-ACRYPT(京都)とを考慮してSITAの開催時期を例年よりも2ヶ月近く早い10月開催にしたので、開催案内(5月末)から発表申込締切(8月4日)と論文原稿締切(9月4日)迄の期間も2ヶ月近く短くなった。したがって、毎年増え続けて来た参加者数と発表論文数のどちらも大幅に減少した(SITA'99では、330名と226件。SITA2000では、254名と170件)。30件以上の発表のあったセッションは、符号理論、暗号と情報セキュリティ、通信方式とスペクトル拡散通信の3つである。デジタル信号処理、情報源符号化とデータ圧縮、シャノン理論、乱数生成、系列等も発表の多いセッションであった。

初日の10日(火)は、午後開始で、例年通りに「情報理論とその応用シンポジウム」の議題で4件の招待講演による情報理論研究会を開催した。11日・12日・13日、一般講演170件の発表とワークショップ(11日夜・3テーマ)、特別講演(12日午後)、本学会の総会(12日午後)、懇親会(12日夜)とを開催した。

ワークショップの3テーマとオーガナイザーは次のとおりである。「第4世代移動体通信の要素技術と将来動向」河野隆二(横浜国大)、「故小山謙二博士の暗号研究での貢献」鶴岡行雄(NTT)、「無損失データ圧縮アルゴリズムの過去・現在・将来」有村光晴(電通大)他。立見が出る程のセッションや夜遅くまで話込むセッションなどがあつた。

昨年のIEEE ISIT(イタリア)で日本人で最初のShannon Lecturerを務めた高忠雄先生(広島市大)による「符号理論研究における挿話」の題目の特別講演を、130名の参加者が熱心に聴講した(写真2)。高先生の特別講



演の OHP の PDF ファイルは、嵩先生のホームページ (<http://www.logic.cs.hiroshima-cu.ac.jp/kasami>) で公開している。

昨年 7 月の理事会で本学会のロゴマークが決ったので、早速 SITA2000 では予稿集の表紙、奨励賞の表彰状 (図 3)、参加者への配布バッグ等に使用した。表彰状のデザインは私と荒木君の 2 人で楽しみながら工夫した。今回は、表彰状を額縁に入れて渡すようにした。

12 日夜の懇親会では、4 名の名誉会員 (佐藤洋・重井芳治・滑川敏彦・堀内和夫) の表彰とメダル授与、また昨年の SITA の若手発表者から選考された 5 名 (有村光晴・杵山公德・中野千誉・花岡悟一郎・三宅基治) に SITA'99 奨励賞の授与があった (奨励賞は、有資格者の発表の中から選考委員会で選考した約 5 % の優秀な発表論文に対して与えられる)。最後に SITA2001 の実行委員長の中中初一教授 (神戸大学) から、神戸で 2001 年 12 月 4 日 (火)-7 日 (金) の日程で SITA2001 を開催するとの発表があった。

今回の実行委員会で意識して工夫した主なことは、次の通りである。

- (1) 別刷 30 部を無料で、講演者に配布した (学会の最大の貢献者である講演者を大切にする。別刷の実費は 500 円程度)。
- (2) 24 の協賛団体に、例年通りに協賛依頼を郵送した。しかし協賛団体名の印刷を、今回は予稿集の表紙でなく

(目立たないように) 予稿集の最後の頁にした。筆者個人としては、必要でないのに、今後は協賛依頼は止めても良いと考えている。

- (3) SITA2000 事務局となった私の大学のある飯塚市とグリーンピア南阿蘇のある久木野村とは離れている (車で片道 3 時間の行程) が、全ての連絡は電子メールで済ませた。
- (4) 参加費を低目に設定した (そのような会場を探した)。
- (5) 阿蘇と九重高原の自然を楽しむためのチャーターバスを企画した (最終日でなく、12 日の午後に企画すれば、もっと多くの人に参加してもらえたと反省している)。
- (6) 実行委員会の委員の勤務地は、九州各地 (福岡・佐賀・長崎・熊本) に分散しているので、全員が集まる実行委員会は 8 月に会場で 1 回だけした。その代わりに、実行委員全員にメールで日程案・予算案・プログラム案等のデータを事前に通知して検討し合うようにした。
- (7) 学会の開催案内、登録業務等は、全てインターネットで行なった。そのためのシステムは、SITA'98 で内匠先生 (名工大) 等が開発され、SITA'99 でも活用されたものである。

思いもかけず SITA2000 開催のお世話を出来て、忙しいが十分に楽しく仕事を出来たことを感謝している。SITA の今後一層の発展とその中から情報理論分野の優秀な研究者が育つことを願っている。

IEEE Gcom2000 報告

Senhaji Rhazi Youssef (名古屋大学大学院電子情報学専攻)

開催日時 : November 27 - December 1, 2000

開催場所 : Fairmont hotel, Stanford Court Hotel, Mark Hopkins Hotel San Francisco, California, U.S.A

参加者数 : 1000 人程度

My impression about the conference :

Well, the number of sessions were quite important, and the topics were quite various that really one can easily recognize how Global this conference was, exactly as its name may tell: Global Communications. Sessions were organized and thought of to meet all specialties related to Communications. Six symposiums were planned: Global Internet, Broadband Wireless, High-Speed Networks, Communication Theory, Satellite Communications for the New Millennium: Network and Systems, Future Photonic Networks, Architectures and Protocols. And in addition a large number of papers were planned for the General Conference. Also 16 tutorials and 2 workshops held on Monday, Nov. 26th, and on Friday, Dec. 1st.

An abundance of high standard works have been presented by specialists in the communications field from all over the world. And as personal impression as a beginner in this field, I felt there is a lot more to learn and

in order to be or keep being world class scientist in this rapidly developing field, one should strive and work hard to be always ready to contribute with up-to-date research results.



The conference was organized between 3 Hotels, The Fairmont Hotel, Stanford Court Hotel and Mark Hopkins Hotel. As a personal point of view, I think this was not a good think to do, because it was a little bit not convenient for people to relocate every time they needed to attend a talk they are interested in. Also they were some technical problems related to the sound system set in the presentation rooms: from time to time voice of the speakers presenting in next door rooms suddenly happened to

interfere with the voice of the speaker presenting in the room of some sessions I attended. But in general, the conference was a success in everything.

The Hotel where we were staying, Yamazato-sensei and I, was very good, but to reach Fairmont Hotel and others where the conference was held, we needed to ride a very steep slope (very famous if you've been already in San Francisco: the area is called Nobb Hill). That was quite tough to ride every day, especially when it is raining out there. The first day of the conference was just Tutorials and they weren't free, so since we didn't apply for those tutorials before-wards, we enjoyed some sightseeing of San Francisco's Land marks: riding cable-cars, visiting China Town, going to the Fisherman's wharf, taking photos at the port side with some historical submarines used in World War II, and also we took photos of Alcatraz (the famous prison island, now a museum), and of course Golden Gate Bridge.. that was real fun..!

We attended also the Banquet, it was quite interesting to see the top leaders of the Information Theory and Communications getting rewarded by the IEEE board. We were in the same table with Prof. Abbas Jamalipour, another Professor from Australia, some Professors from Italy, one Professor Fukawa from Tokodai, and Dr.Hamazumi from NHK. The dinner was gorgeous..!



「第4回情報論的学習理論ワークショップ」論文募集

(Information-Based Induction Sciences : IBIS2001)

主催：電子情報通信学会 情報論的学習理論時限研究専門委員会

共催：情報理論とその応用学会

協賛 (依頼中を含む) :

電子情報通信学会： 情報理論研究専門委員会, 人工知能と知識処理研究専門委員会,
コンピューテーション研究専門委員会, ニューロコンピューティング研究専門委員会,
パターン認識・メディア理解研究専門委員会,
IEEE Information Theory Japan Chapter, 人工知能学会, 情報処理学会, 日本神経回路学会,
計測自動制御学会, システム制御情報学会, 日本物理学会, 応用統計学会

日時：7月30日(月)～8月1日(水)

会場：国立情報学研究所 (東京都千代田区一ツ橋 2-1-2, <http://www.nii.ac.jp/map/hitotsubashi-j.html>)

～開催趣旨～

本ワークショップは 電子情報通信学会 情報論的学習理論時限研究専門委員会が主催するもので、情報理論、統計学、統計物理学、計算統計学、機械学習、ニューロ、応用(画像、言語、複雑系、生体系、データマイニング、金融工学 etc)などの緊密な結び付きに焦点をあてて、知識情報処理の新しい方向性を模索する、学際的なものです。

IBISは今年で4回目を迎え、毎回幅広い分野から多くの参加を頂き、様々な視点から学習についての活発な意見交換が行われています。IBIS2001もこの自由な雰囲気をお大切に、さらに多くの方々とのより深い意見交換が行えるよう、引続き幅広い分野からの一般講演を募集します。

IBIS2001では、トピックスを絞ってより深い議論を行っていただくために、2つの特別セッションを企画しています。近年飛躍的に重要性が増しているデータマイニングへの統計的・情報論的アプローチを議論する「データ・テキストマイニングにおける統計的モデリングの実際」と、理論・応用の双方に興味深い問題を提供しているアンサンブル的な予測の方法論について議論する「Combining Predictors」の二つです。

一般セッション、特別セッションともに、多くの皆様の参加と発表をお待ちしています。

1. 招待講演 (講演者敬称略)

- 田崎 晴明 (学習院) 「統計力学と大偏差原理について (仮題)」
- 長岡 浩司 (電通大) 「量子系の情報幾何について (仮題)」
- 山本 博資 (東大) 「ユニバーサルデータ圧縮アルゴリズムの変遷 基礎から最新手法まで (仮題)」

ほか若干名を予定

講演題目は変更される可能性もあります。

2. 一般講演

(a) 募集要項

- 一般セッション (英語, 日本語両方可)

オリジナルな論文はもちろん, その分野のサーベイ的論文で他分野の参加者との意見交換のベースとなるものも歓迎します。

[投稿対象分野]

知識情報処理における統計的推測 (モデル選択規準, ベイズ推定, 予測理論, 情報幾何学, ユニバーサル符号化 等),
機械学習, 学習理論, 統計力学的学習, 計算量統計学,
複雑さの理論 (Kolmogorov Complexity, Stochastic Complexity 等),
各種表現系 (ニューラルネット, ペイジアンネット, Graphical Model 等),
進化アナロジーによる最適化・学習 等,
およびそれらの応用 (パターン認識, 画像処理・理解, 自然言語処理,
ロボティクス, データマイニング, 金融工学, 時系列解析, 生体情報処理 等),
その他, 学習に関係する情報処理や統計的手法の理論や応用。

- 特別セッション 1

「データ・テキストマイニングにおける統計的モデリングの実際」

(オーガナイザ: 竹内 純一 (NEC), 山西 健司 (NEC))

~ 企画趣旨 ~

大量のデータの中から価値ある知識を発見するための技術として, データマイニング・テキストマイニング技術が急速な勢いで発展しています。このようなマイニング技術は回帰分析, 数量化理論, モデル選択など従来の統計学や情報理論の手法に負うことが多い。しかし, 昨今のデータは大量かつ複雑になってきており, マイニングの目的も顧客管理や不正検出など多岐に渡るため, 必ずしも既存手法の単純な当てはめだけでは対処できるとは限りません。むしろマイニングの立場から見て有効な統計手法, 情報論的手法が新たに発見され, 整理されるだろうという見方もできます。そこで, 現実にマイニングを行う上での有効性, 特に scalability, complexity, readability 等の視点から, 統計的モデリングと学習アルゴリズムについて実例を通じて議論することを目的に本セッションを企画します。例えば, CRM 向け顧客分析, POS データからの売筋分析, コールセンターでの情報分析, web 情報からの知識発見, ネットワーク不正侵入検出,トレンド発見, アンケート分析, テキストの自動 indexing, 情報検索等に有効な統計的・情報論的アプローチは何か? といった問題が議論の対象となります。

- 特別セッション 2

「Combining Predictors」

(オーガナイザ: 春野 雅彦 (ATR), 向内隆文 (NTT))

~ 企画趣旨 ~

近年, boosting や bagging など複数の予測器の組み合わせで精度を向上させる手法はその理論的理解が飛躍的に進歩したのみならず, 実世界の問題に適用され大きなインパクトを与え始めています。本特別セッションは上記の手法に留まらず,

- ・ mixtures of experts の学習ならびに近似法
- ・ 多数決決定法
- ・ ベイズ統計 (特に混合分布) に基づく学習,

などの複数の予測器を組み合わせる手法に関する理論的, アルゴリズム的研究, 及びこれらの手法の実問題への適用に関する応用研究を広く募集し, それぞれの違いや共通点から combining predictors の現状ならびに今後の展開について議論する場とします。

なお、本セッションでは外国人招待講演も検討しています。その場合にはセッションでの発表、議論は英語で行います。

[対象論文]

Boosting, Bagging, Mixtures of experts, Neural network ensembles, Bayesian mixture prediction などの理論的解析, アルゴリズムに関する論文, ならびにそれらの実用的な問題への応用に関する論文。

一般セッション・特別セッションとも応募論文は情報理論, 統計学, 統計物理学等に基づく客観的な評価を基本とした上記分野の理論的研究あるいは実験的研究に関するものを特に奨励致します。一般セッションは口頭発表とポスター発表の二つの形式で行われます。

(b) 応募方法

- i. 原則として電子的に投稿していただくようご協力をお願いします。題目, 著者名, キーワード (5 程度), E-mail アドレスを含む A4 判 2 枚程度の概要を PS ファイルの形式で作成し, 下記の Web ページに必要な事項を入力するとともに, 概要の PS ファイルを E-mail にて送付して下さい。最終カメラレディ原稿を英語で作成する場合でも, 概要は日本語で投稿していただいて構いません。
- ii. 投稿時に記入していただく Web ページ:
<http://www.ism.ac.jp/fukumizu/ibis2001/submit.html> (3 月上旬正式稼働予定)
概要の送付方法の詳細もこのページでご確認ください。
- iii. 上記の電子的な投稿方法が困難な場合は,
ibis-paper@murata.elec.waseda.ac.jp までご連絡ください。
- iv. 採択された場合は予稿集の形式でカメラレディ原稿 (6~8 ページの予定) を提出していただきます。

(c) スケジュール

論文応募締切: 平成13年4月13日(金)
採否通知: 平成13年5月21日(月)
カメラレディ原稿締切: 平成13年6月18日(月)

3. お問い合わせ先

(お問い合わせはなるべく電子メールでお願いします。)

一般的なこと:

ibis-general@murata.elec.waseda.ac.jp
〒560-0043 豊中市待兼山町1-1
大阪大学大学院 理学研究科 数学専攻
鈴木 譲
電話: (06)6850-5315
FAX: (06)6850-5327

論文投稿に関すること:

ibis-paper@murata.elec.waseda.ac.jp
〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所
福水 健次
電話: 03-5421-8730
FAX: 03-5421-8796

4. 実行委員, プログラム委員

実行委員長	鈴木 譲 (阪大)
実行委員	村田 昇 (早大)
プログラム委員長	福水 健次 (統数研)
プログラム委員	赤穂 昭太郎 (産総研), 井上 純一 (北大), 上田 修功 (NTT), 桜井 彰人 (北陸先端大), 渡邊 澄夫 (東工大), 竹内 純一 (NEC), 山西 健司 (NEC), 春野 雅彦 (ATR), 向内 隆文 (NTT)

5. その他

ワークショップについての情報は, ホームページでも公開しております。最新の情報は,
<http://www.ism.ac.jp/fukumizu/ibis2001/ibis2001.html> をご参照下さい。

参加費は, 一般 6000 円, 学生 3000 円 (予稿集代込) を予定しております。今回は東京開催のため, 前回までと異なり宿泊形式とはならず, また宿泊の斡旋などは行いません。正式な参加費, 参加申込方法などは後日, メーリングリストや上記ホームページなどでお知らせ致します。

また, IBIS2001 の趣旨に沿った論文特集が電子情報通信学会論文誌 D-II に企画されています。IBIS2001 で発表された研究の中で優れた内容のものは, この特集号に招待論文として推薦されることもあります。特集号の詳しい内容

国際会議のお知らせ

以下のご案内する内容につきましては、変更になっている場合もありますので、ご自身でのご確認をお願い致します。

20th IEEE International Conference on Computer Communications (INFOCOM2001)

日時 2001 年 4 月 22 日-4 月 26 日

場所 Anchorage, Alaska

URL <http://www.ieee-infocom.org/2001>

IEEE International Conference on Communications (ICC2001)

日時 2001 年 6 月 11 日-6 月 15 日

場所 Helsinki

URL <http://www.icc2001.com>

IEEE International Symposium on Information Theory (ISIT2001)

日時 2001 年 6 月 24 日-6 月 29 日

場所 Washington DC

URL <http://www.seas.smu.edu/isit2001>

IEEE Military Communications Conference (MILCOM2001)

日時 2001 年 10 月 22 日-10 月 24 日

場所 Washington DC

URL <http://www.milcom.org/2001>

IEEE Global Communications Conference (GLOBECOM2001)

日時 2001 年 11 月 15 日-11 月 29 日

場所 San Antonio, Texas

URL <http://www.globecom2001.com/src/CallForPapers.shtml>

博士論文要旨の掲載 募集のお知らせ

SITA ニュースレターでは博士論文要旨の寄稿をお待ちしております。本年 1 月以降に学位を取得された方について、その博士論文の要旨を掲載致します。該当の方は以下の書式で、編集理事までお送り下さい。]

- (1) 論文題名 (和文論文は和文のみ、英文論文は英文のみ)
- (2) 氏名、現在の所属
- (3) 電子メールアドレス
- (4) 要旨 (おおよそ、1 / 4 ページ、4 5 0 字程度以内、大幅に超過した場合には打ち切り掲載となります。)
- (5) 文献 (最も関係の深い学会発表論文 1 件)
- (6) 学位取得大学、および学位授与年月日

学位取得者本人からの寄稿だけでなく、指導教員からの寄稿も歓迎します。なお、学位取得者と連絡がとれない場合など、要旨の電子化が容易でない場合には要旨を省略して頂いても結構です。

情報理論とその応用学会 2001 年度役員

2000 年度第 3 回理事会、2000 年度通常総会、2001 年度第 1 回理事会の決議を経て、2001 年度役員は次の通り決定致しました。

顧問			
辻井 重男	(中央大)	Shu Lin	(ハワイ大)
嵩 忠雄	(広島市立大)	有本 卓	(立命館大)
笠原 正雄	(大阪学院大)	平澤 茂一	(早稲田大)
今井 秀樹	(東京大)	田中 初一	(神戸大)
原島 博	(東京大)		
会長			
韓 太舜	(電通大)		
副会長			
小林 欣吾	(電通大)	井原 俊輔	(名大)
理事			
無任所			
白木 善尚	(NTT)	藤原 融	(阪大)
庶務			
山本 博資	(東大)	中川 健治	(長岡技術大)
会計			
伊丹 誠	(東京理科大)	地主 創	(青山学院大)
編集			
岡 育生	(大阪市立大)	杉村 立夫	(信州大)
企画			
横尾 英俊	(群馬大)	鎌部 浩	(岐阜大)
監事			
金谷 文夫	(湘南工科大)	中村 勝洋	(NEC)
幹事			
無任所			
山田 功	(東工大)	大濱 靖匡	(九州大)
石丸 勝洋	(NTT)	稲葉 宏幸	(京都工芸大)
庶務			
有村 光晴	(電通大)	小林 学	(早稲田大)
会計			
大槻 知明	(東京理科大)	渋谷 智治	(東工大)
編集			
山里 敬也	(名古屋大)	野上 保之	(岡山大)
企画			
村松 純	(NTT)	井坂 元彦	(東大)
評議員			
今村 恭己	(九工大)	坂庭 好一	(東工大)
高田 豊雄	(岩手県立大)	松嶋 敏泰	(早稲田大)
若杉 耕一郎	(京都工繊大)	岩村 恵市	(キヤノン)
河野 隆二	(横国大)	田崎 三郎	(愛媛大)
大橋 正良	(KDD)	村上 篤道	(三菱電機)
山岸 篤弘	(三菱電機)	秋山 良太	(富士通)
小松 尚久	(早稲田大)	丸林 元	(創価大)
三浦 守	(岩手大)	植松 友彦	(東工大)
岡本 栄司	(東邦大)	山口 和彦	(電通大)
常盤 欣一郎	(神戸大)	内匠 逸	(名工大)
B.S.Vucetic	(シドニー大)	V.K.Bhargava	(ビクトリア大)
Han Vinck	(エッセン大)	中川 正雄	(慶応大)
森井 昌克	(徳島大)	笹瀬 巖	(慶応大)
荒川 薫	(明治大)	笹野 博	(近畿大)
鈴木 讓	(大阪大)	畑 雅恭	(愛知県立大)

会員の声

入会手続きについて 庶務理事 山本博資

「SITA の入会手続きが分かりにくい」「入会処理が遅い」という苦情は以前からも、ときどき事務局にも聞こえてきています。これらの問題が生じる根本原因は、情報理論とその応用学会がボランティアベースで運営されており、頻繁に事務局が移転していることや、法人でないためプロバイダーなどとの契約が簡単でないことに帰因しています。しかしながら、それを理由に、入会の不便さをそのままにしておくのはもちろんよくありません。今後できるだけ問題点を解決できる方向に努力したいと考えています。入会には理事会承認が必要ですが、メールによる理事会で、承認を迅速に処理をすることが 2001 年度の第 1 回理事会で決まりました。

現在、入会申込書は下記の HP で、PS ファイルまたは TeX ソースファイル (A4 横向き 1 枚) として入手できます。

<http://pegasus.lit.cs.uec.ac.jp/sita/>

また、学会事務局宛に連絡して頂ければ、郵送または Fax でお送りすることも可能です。入会申込書に必要事項を記入の上、下記事務局宛に郵便または Fax でお送り下さい。
〒 113-8656

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学工学部計数工学科内
情報理論とその応用学会事務局
山本博資 宛

Fax: 03-5841-8605

E-mail: sita-office@hn.is.uec.ac.jp

今年は SITA 会場でも入会申込書を配付したいと考えていますが、SITA 参加費の会員割引を混乱なく受けるためには、SITA 当日以前に入会手続きをすませて頂ければと思っています。よろしく御協力をお願いします。

SITA ニュースレター・ホームページ URL の変更について

SITA ニュースレター 37 号から、閲覧用ホームページの URL が

<http://www.ogawa.nuee.nagoya-u.ac.jp/yamazato/sitanl/>

に変更となりました。ここでは、36 号以降を掲載しています。22 号～35 号のバックナンバーについては、暫定的に <http://sita-nl.ics.nitech.ac.jp/> で閲覧が可能です。

編集後記

ニュースレター第 37 号をお届けします。今回は、第 36 号の「会員の声」欄に寄稿して頂いた楫さんの声に関して、事務局よりの回答を掲載致しました。引き続き、会員の皆様の活発なご投稿をお待ち致します。また、一部の会員にニュースレター発行の案内が届いていないことが確認されております。このようなことが無いように改善を図って参りますが、それまでは、心当たりの会員がおられましたら、ニュースレター発行をお知らせ頂ければ幸いです。（岡）

編集担当者

岡 育生 (編集理事)

〒 558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

大阪市立大学工学部情報工学科

Tel. 06-6605-2779

Fax. 06-6690-5382

Email oka@info.eng.osaka-cu.ac.jp

山里 敬也 (編集幹事)

〒 464-8603 名古屋市中種区不老町

名古屋大学情報メディア教育センター

Tel. 052-789-2743

Fax. 052-789-3173

E-mail yamazato@nuee.nagoya-u.ac.jp

杉村 立夫 (編集理事)

〒 380-8553 長野市若里 4-17-1

信州大学工学部電気電子工学科

Tel. 026-269-5237

Fax. 026-268-5220

Email tsugimu@gipwc.shinshu-u.ac.jp

野上 保之 (編集幹事)

〒 700-8530 岡山市津島中 3-1-1

岡山大学工学部通信ネットワーク工学科

Tel. 086-251-8128

Fax. 086-251-8127

E-mail nogami@cne.okayama-u.ac.jp

情報理論とその応用学会事務局
〒 113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学工学部計数工学科
数理第 3 研究室内, 山本博資 気付
Tel: 03-5841-6930 (直通), Fax: 03-5841-8605
Email: sita-office@hy.t.u-tokyo.ac.jp